

1 事業の目的

近年の経済成長が注目されているアジア地域では、地球温暖化や気候変動による洪水や干ばつなどの自然災害の影響を受け、依然として多くの国々が慢性的な食糧不足に直面している。

また、アジア地域では、流通網が未熟であることから、輸送中の傷みや鮮度劣化によるポストハーベストロスが多く、灌漑施設の整備や機械化の遅れにより、労働に対する生産性が低いため、これらは食糧不足改善の妨げになっているだけでなく、同地域の人口に対する農業従事者の割合が減少傾向に起因すると考えられる。

これらの地域が抱えている諸問題に、我が国はアジアに位置する先進国として、農産物の生産力の向上と流通網の改善および、将来の農業を担う若手の育成に率先して協力する必要がある、それらを進めるためには、農業に関する知見と実践力を兼ね備え、情報発信力を持つ若手農業者の人材育成を行うことが喫緊の課題である。

我が国は、高度な農業技術を有しており、特に稲作や野菜、畜産等の生産力向上に貢献することが可能である。さらに、生産から流通においても世界最高水準の品質管理を誇り、付加価値の向上を目指した6次産業化を強く推進している。また、同地域の経済発展に伴い、現地において高品質で安心・安全な農産物の需要は高く、日本食関連企業の更なる発展が期待される今日、フードバリューチェーンの構築は、双方に大きな利益をもたらすこととなる。

そこで、本会（（公社）国際農業者交流協会）はアジア地域の農業振興に貢献するとともに、我が国との懸け橋となり得る人材育成のために、同地域の農業青年を我が国に招聘し、優れた経営技術を有する農家での実践研修と豊富な専門知識を有する講師陣を配する農業教育機関での学科研修を行なう。実践と理論を組み合わせた研修により、生産力及び品質向上を可能にする日本の生産技術を体得させ、フードバリューチェーンの構築に欠かせない付加価値を向上させるための豊富な知識とノウハウを習得させることを実現する。また、農業研修修了生にアンケート調査を実施し、現地の農業者が抱えている課題について把握し、課題解決のために、優れた生産技術を有する我が国の農業者を同地域に派遣し、適切な技術指導を行う。更にはフードバリューチェーンの構築に向け、農産物の流通改善についての指導や日本食関連企業との関係構築も行う。

2 事業の内容及び実績

（1）研修事業

① 研修生の人数

国 名	人 数
タ イ	19名
インドネシア	18名
フィリピン	4名

② 研修生の送り出し機関との連携体制

国 名	送り出し機関名	送り出し機関の役割
タ イ	農業協同組合省 国際農務部	普及局、畜産局、協同組合局、農地改革局の4局から研修生を推薦し、国際農務部が一括して事前講習を実施し派遣すると共に本会との調整等を行なった。研修生募集、選考については各局の地方事務所を通じて行なった。
インドネシア	農業省 農業人材育成庁	農業人材育成庁の農業研修開発局が担当し、各州政府から選出された研修生に対し、選考、事前講習を実施し派遣すると共に本会との調整等を行なった。研修生の募集は各州政府が地方事務所を通じて行なった。
フィリピン	農業省 農業訓練庁	農業訓練庁の普及教育部が担当し、事前講習を実施し派遣すると共に本会との調整等を行なった。研修生の募集は各州の地方事務所を通じて行なった。また、年次会議を2022年5月19日に都内において実施した。

③ 集団研修

研修の種類	時期・期間	体制、研修内容、実施方法
基礎研修	2022 年 4 月 22 日～ 5 月 6 日（15 日間）	コロナウイルス感染拡大防止のため、研修生各人に一部屋を確保し、適切なソーシャルディスタンスを保ちながら、農家研修における生活および実務研修にスムーズに入れるように研修を行った。各国の通訳を介して日本の生活様式や習慣等の基本的な生活指導と日本語学習、農業機械の安全操作についての講義等を行なった。 日本語は専門の日本語講師による学習指導を行ない、農業講義は農業機械分野の専門家等が指導を行った。 上記の講義およびオリエンテーションは、一人一台のノートパソコンを貸与し、オンライン形式にて行った。 また、新型コロナウイルスの水際対策の緩和にともない、急遽来日が決まったことから、海外農業研修経験を持つ日本人青年を国ごとに確保することが難しかったため、期間中は本会職員が研修生と生活を共にしながら生活指導や日本語の自習サポート等に当たった。 配属時には各県毎に通訳を同行させ、受入農家と研修生の意思疎通を図った。 研修実施場所：ハートンホテル東品川
学科研修	2022 年 8 月 19～29 日 （11 日間）	農家研修での実務研修で得た経験を理論的な面から理解を深めるために農業教育専門機関の教職員及び技術指導員による農業経営、アグリビジネス、フードシステム、GAP、作物栽培、病虫害防除等の専門学習及び実験、農業機械研修を実施。講義等には各国の通訳を配置した。 また、期間中は本会職員と共に青年スタッフが研修生と生活を共にしながら生活指導、研修の悩み等を解決した。 さらに、各研修生へのインタビューを行い、前半の農家研修の状況を確認し、問題があれば解決を図ると共に、後半の農家研修の課題提案および目標確認等の指導を行った。 研修実施場所：公益財団法人鯉淵学園 鯉淵学園農業栄養専門学校（茨城県水戸市鯉淵町）及び農林水産省農林水産研修所つくば館水戸ほ場（茨城県水戸市鯉淵町）
最終研修	2023 年 3 月 6～9 日 （4 日間）	各研修生に研修成果を纏めさせると共に報告会を開催し、国毎に集団研修（基礎研修及び学科研修）並びに農家研修の成果についての報告を行なった。また、事業関係者を招いて修了式を開催した。 研修実施場所：大田区青少年交流センターゆいっつ

④農家研修

ア 農業技術、農業経営、地域の農業者の組織活動等に関する研修

研 修 生		時期・期間	配属先 都道府県名	主な研修作目及び研修内容
国 名	人 数			
タイ	1名	2022年5月7日～ 8月18日（104日） 2022年8月30日～ 2023年3月5日 （188日）	岩手県 宮城県 栃木県 長野県 埼玉県 神奈川県 千葉県 愛媛県 福岡県 沖縄県	・OJT研修 ・プロジェクト学習 ・農業者組織との交流活動等 リンゴ・野菜 酪農、水稻・野菜・花卉 養豚、水稻・野菜 酪農・野菜 植木、野菜・水稻(2)、 野菜、野菜・柑橘 野菜・水稻 水稻・野菜、水稻、水稻・柑橘 水稻・野菜 野菜、酪農、イチゴ・野菜
	2名			
	2名			
	1名			
	3名			
	2名			
	1名			
	3名			
	1名			
	3名			
インドネシア	1名		岩手県	リンゴ・水稻
	1名		福島県	野菜
	1名		神奈川県	柑橘・野菜
	1名		千葉県	イチゴ・野菜
	2名		長野県	野菜(2)
	2名		静岡県	野菜、野菜・水稻
	2名		福井県	野菜・水稻、水稻
	3名		愛知県	酪農、切花、野菜
	2名		和歌山県	養鶏、柑橘・野菜
	1名		京都府	野菜
	1名		広島県	水稻・野菜
	1名		宮崎県	鉢物・水稻
フィリピン	1名		北海道	野菜・水稻
	2名		岡山県	果樹・花卉、ブドウ・梨・水稻
	1名		熊本県	水稻・肉牛

() 内の数字は人数とする。

イ 先進的な農業関連施設等の視察を通じた研修

研 修 生		時期・期間	視察先	テーマ及び内容
国 名	人数			
タイ	19名	2022年7月～ 2023年3月までの期間（うち2日間）	農業試験研究機関及び先進農家等	<地方研修> 各配属県において、その県の農業の特徴や現状を知るため、農業試験場等農業関連施設や6次産業化など先進的経営を实践している農家等の視察を行なった。
インドネシア	18名			<プロジェクト学習> 受入農家の指導によるプロジェクト学習を行なった。プロジェクト学習とは各研修生が興味を持った農業に関する事柄や
フィリピン	4名	農家研修の期間		

				生産技術、フードシステム、6次産業化などをテーマとして、生育管理の実験や観察を行い、その記録を取り纏め、レポートを作成するものである。
--	--	--	--	---

イ 先進的な農業関連施設等の視察を通じた研修

配属先 県名	研修生		期 間	主な研修内容及び視察先
	国名	人数		
北海道	フィリピン	1名	11月25日 12月1～3日	【公設土壌診断センター視察】土壌サンプリング～土壌診断のプロセスを学んだ。 【農産物6次化研修】味噌作り（麴の仕込みから味噌仕込みまで）について研修を連日行った。
岩手県	インドネシア	1名 1名	6月12日 11月2日	【視察】山形県内道の駅「チェリーランドさがえ」（農産物、加工本品揃え、販売状況研修）、JAさくらんぼひがしかね「よってけポポラ」（サクランボ品評会などの研修）への訪問、見学をした。 秋田県種苗交換会（特産物の種苗・農産物、加工品、先進的農業機械・道具についての研修）へ参加した。 道の駅協和「四季の森」（リンゴ、野菜等の販売状況研修）への訪問及び研修を行った。
宮城県	タイ	2名	10月8日～9日	フルーツパークあらはまの視察および研修、半澤牧場の視察および研修を行った。
福島県	インドネシア	1名	9月7～8日	【スマート農業研修】ドローン研修およびシュミレーターによる機器操作の体験をした。農友会役員との情報交換・交流を行った。 【農産物生産施設視察】菌床しいたけ施設の視察（農園の運営方法などの学習）を行った。 【6次化製品製造工場視察】（有）明陽食品工業農産物加工施設を視察を行った。地場産にんじんや果実類を使用したドレッシング・ジャム等の製造、および地域農家との連携について学んだ。 【6次化商品販売施設等視察】地域交流センター（ひじりん館農産物直売所）における6次化商品の販売促進手法および併設レストランでの活用状況の視察（訴求力を高める陳列方法、ポップの作り方、お客様が動きやすい動線配置など）を行った。
栃木県	タイ	3名	8月31～9月1日	【栃木県農業試験場】作物・園芸研究室を中心に施設内見学をした。 【道の駅「うつのみやろまんちっく村」】地域農産物における販売状況の視察を行った。
埼玉県	タイ	3名	7月22日 9月9日	【施設園芸展・植物工場展（東京ビックサイト）】最先端の施設園芸技術について学んだ。 【熊谷青果市場見学・意見交換】市場概要の説明を聞きながら意見交換を実施し、6次化産業化の取り組みについて学んだ。
千葉県	タイ	1名	9月24日 10月22日	【農産物直売所等見学】道の駅 木更津うまくだの里の視察を行った。 JAグループ千葉主催 農業機械大展示会の視察を行った。

千葉県	インドネシア	1名	7月20日 2023年2月28日	【施設園芸展・植物工場展（東京ビックサイト）】最先端の施設園芸技術について学んだ。 築地市場場外見学をした。 中山農園視察（小松菜、ホウレンソウ、青ネギの栽培および大規模経営について）と実習生との意見交換を行った。 いちごみらい園の見学をし、いちご狩り体験（いちごの高設栽培システムおよび環境制御システムの学習）を行った。
神奈川県	インドネシア タイ	3名	7月29日 8月5日	アシストスーツ実演会に参加した。 神奈川県農業技術センター場内や、豊洲市場施設の見学をした。
長野県	インドネシア タイ	2名 1名	11月20～21日	農産物直売所等の見学（地域農産物販売状況視察）をし、研修生意見交換会に参加した。 令和4年度関東甲信静越ブロック国際化対応農研究会への参加、意見交換会に参加した。
静岡県	インドネシア	2名	7月26～27日 12月22日	地域農業青年と交流を深め、意見交換等を行った。 鈴木農園にてイチゴ狩り施設の見学・運営方法を学んだ。 ふじのくに茶の都ミュージアム（茶栽培に必要なとなる農業機械の試乗などを実施）、農家レストラン（ダ・モンデ）、ファーマーズマーケット「KADODE OOIGAWA」、茶の庭の見学をした。
福井県	インドネシア	2名	10月10日 10月11日	吉村農園、産直施設の見学をした。 県中央市場の見学をし、県庁への訪問を実施した。
愛知県	インドネシア	3名	10月13～14日	【横山農園】トマトの直売所及び栽培施設の見学をした。 【名古屋中央卸売市場】市場の概要、トラック等の流れ、市場の役割等を学んだ。 【愛知県農業総合試験場】愛知県の農業及び農業試験場の概要説明および、カーネーション・バラ・トマトの試験圃場の見学をした。
京都府	インドネシア	1名	8月2日 10月4日	【奥田バラ農園見学】無農薬・水耕栽培施設の視察や、栽培管理状況とバラの加工利用の取り組みについて学んだ。 【株式会社やがて訪問】有機栽培黒大豆、黒豆茶の加工、養蜂、錦鯉養殖、バラ栽培等の取り組みについて圃場及び施設内の見学をした。
和歌山県	インドネシア	1名	8月10日 8月30日	和歌山市中央卸売市場（和歌山青果株式会社：せり等）、とれたて広場（直売所）、和歌山県組織会員圃場、養鶏研究所施設および、農林大学校の施設及び設備の見学をした。
岡山県	フィリピン	1名	11月14日 11月20日	【洋蘭農家視察】シンビジューム生産者や、デンドロビューム生産者などの生産ハウスで現場視察と生産について学んだ。 【豊明花卉市場見学】日本全国から集まる多くの季節の草花や観葉植物などの種類、流通の形態を学んだ。
岡山県	フィリピン	1名	10月14日	幕張メッセにて展示会農業 week を視察した。

			10 月 15 日	農業資材、園芸資材、選果システム、6 次化システム、ドローンなどスマート農業を学んだ。 千葉県南房総市の折原園芸の視察を行った。 ランニングコストを抑えた日本一の生産について学んだ。
広島県	インドネシア	1 名	11 月 17 日 11 月 18 日	野菜対面販売の実施、(株) 広印広島青果市場の見学をした。 森田農園（北広島町）にて、苗の接ぎ木実演の見学をした。
愛媛県	タイ	1 名	7 月 20 日 10 月 15 日	宇和ワールドファーマーズ視察（柑橘栽培の研修及び、研修生との意見交換）を行った。 林業機械の視察研修を行った。
愛媛県	タイ	1 名	7 月 22 日 2023 年 1 月 20 日	【農産物直売所等見学】道の駅「天空の郷 さんさん」および、松前町河内晩柑の販売状況を視察した。 【農産物直売所等見学】道の駅「あさつゆマルシェ」視察、新居浜市内にて柑橘類全般の販売状況について見学をした。
愛媛県	タイ	1 名	10 月 15 日 2023 年 1 月 2 日	JA 農産物直売所等見学（地域農産物販売状況視察）、周ちゃん広場、よしうみバラ公園を訪問した。 道の駅「あさつゆマルシェ」、JA 今治直売所 さいさいきて屋および、しまなみハイウェイを視察した。
福岡県	タイ	1 名	11 月 21 日 11 月 22 日	耳納の里 まんてん市場、JA にじ直売所視察を行った。 道の駅くるめ、農産物直売所を訪問し、施設見学をした。
熊本県	フィリピン	1 名	7月28日 8 月 10 日	JA グループ熊本「第 58 回農機自動車大展示会」視察した。「集まれ！未来の技術、熊本の地へ」をテーマに GPS 機能等を搭載した最新の農業機械の他、コスト低減や労働力軽減を目的としたドローン等スマート農業コーナーもあり、最新農業技術の知識を深めることが出来た。 令和 4 年 8 月肉専子牛市場 褐毛種上場視察を行った。
宮崎県	インドネシア	1 名	10 月 3 日 10 月 4 日	【宮崎県総合農業試験場】試験場及び試験研究概要、バイオテクノロジーに関する研究、残留農薬検査研究、野菜栽培に関する研究について学んだ。 【みやざき農業実践塾（実習）】農業科学館、口蹄疫メモリアルセンターの視察・研修及び実習を行った。
沖縄県	タイ	3 名	2 月 23 日 2 月 24 日	【先進農家視察】 果樹・野菜（マンゴー他）農場視察、肉牛農場視察、養鶏農場視察、切花（小菊）農場視察、野菜（トマト・葉野菜他）農場視察、南部支部農業青年との交流会を行った。 【市場・直売所および先進農家視察】 沖縄県中央卸市場（青果セリ）視察（国内青果物取り扱い）、那覇青果物卸商事協同組合（外国産輸入青果物取り扱い）（南部家畜セリ市場視察）、野菜（ピーマン）農場視察、JA 糸満ファーマーズマーケット視察、野菜（モロヘイヤ）農場視察、観葉植物（切葉）

				農場視察を行った。
上記の地方研修（各配属県においての視察研修等）の他、各研修生はプロジェクト学習（自身が興味を持った事項、あるいは技術・経営等をテーマとして、生育管理の実験や観察を行い、その記録を取り纏めて、レポートを作成）を行った。				

⑤ 研修報告会

時 期	実施方法、報告内容等
2023 年 3 月 7 日	帰国前の最終研修（於：都内）において、各研修生に対してアンケート調査を行なうとともに、通訳を介して国毎に研修実績・成果を取り纏め、報告会において報告させた。

（２）現地における流通改善セミナーの開催

対象国	講師		時期 ・ 期間	主 な 内 容 (参加対象者の情報も含む)
	氏 名	所属・役職名		
タイ	A	（公社）国際農業 者交流協会 業務部長	2023年2月3日 (1日間)	農業研修修了生及び農業省、地方自治体、流通関連事業者に対し、収穫後の適切な選別や梱包、出荷及び輸送等、流通改善の方法について、セミナー形式にて行った。
（セミナーの内容） ・ 日本型農産物流通の優良点 ・ ポストハーベストレロス削減方法 ・ コールドチェーンによる鮮度保持の重要性 ・ 品質や鮮度保持のための実践的な手法				

（３）フォローアップ調査・技術指導

① 平成 28～令和 2 年度研修修了者の営農状況に関する情報の収集

時 期	調査方法	調査項目
2022年6月～2023年1月	アンケート調査	1) 現在の職業、2) 帰国後の農業経営の変化（農業労働力、農地面積、作物、家畜、農業機械等）、3) 技術改善、4) 研修成果の活用状況、5) 地域リーダーとしての役割等についての設問を各国語に翻訳して送り出し機関に送付し、対象者から回答を収集した。

② 学識経験者等による現地調査及び指導

対象国	学識経験者／専門家		時期 ・ 期間	主 な 内 容
	氏 名	所属・役職名		
タイ	A	東京農業大学 地域環境科学部 生産環境工学科 研究員	2023年1月29日～2 月5日（8日間）	帰国後5年程度経過した研修修了生4名を訪問して、聞き取り調査を行なった。また訪問した研修修了生に対し、農業現場にて必要な助言・指導等を行った。
	B	（公社）国際農業者交流協会業務部長		聞き取り調査の内容 1) 現在の職業 2) 帰国後の農業経営の変化（農業労働力、農地面積、作物、家畜、農業機械等） 3) 技術改善 4) 研修成果の活用状況 5) 地域リーダーとしての役割等について

③ 研修効果発現促進検討会

ア 検討会の開催

開催時期	場 所	内 容
2023年3月31日	東京都内	オンラインにてアンケート調査及び学識経験者派遣の結果報告及び取り纏めを行った。

イ 委員構成

分 類	委員氏名	所属・役職名
検討委員	A	前日本農林漁業振興会常務理事
	B	東京農業大学 研究員
	C	（公社）国際農業者交流協会常務理事
	D	（公社）国際農業者交流協会業務部長
事務局		

④ 我が国の中核的な農家の派遣による技術指導

対象国	氏名	時期 ・ 期間	主 な 内 容
タイ	A	2023年1月29日～2月5日 （8日間）	2022年中はコロナ禍の影響により現地の状況が不安定で実施が出来なかったが、フォローアップ調査と併催の形で実施することが出来た。 実施が決まったタイミングでは指導先の研修修了生に合わせた農家への依頼が難しかったことから、今回は農業の全般的な指導経験と豊富な知識を持つ元埼玉県農業改良普及員で、同県農業大学校で教員経験を持ち、かつJICAの青年海外協力隊員としてタイで農業指導を行っていた経験も持つ里見洋司氏に技術指導を依頼した。 研修修了生の帰国後の営農状況を把握し、研修修了生が抱える栽培や経営に関する問題について、適切な指導を行った。

⑤ 報告書作成

部 数	配布計画
30部	受入関係者、関係機関

(4) 優良農家となった研修修了者のデータベース作成

① 情報収集・事前調査

対象国	専門家・調査担当者等		時期 ・ 期間	実 施 方 法
	氏 名	所属・役職名		
タ イ インドネシア フィリピン	A B	(公社) 国際農 業者交流協会 業務部受入業務課	2022年6月～ 2023年1月	各国政府が研修修了生からなるOB の組織と協力し、研修修了生の中か ら日系食関連企業へのサプライヤー となり得る優良農家の候補者の選定 を行った。データベース構築のため のアンケート調査を行った。 オンラインにて優良農家選定委員会 を開催し、優良農家を決定した。

② 優良農家選定検討会

開催時期	場 所	出席者	内 容
2023年3月31日	東京都内	A 元東京農業大学国際食料情報学部 国際農業開発学科准教授 B (公社) 国際農業者交流協会常務理事 C (公社) 国際農業者交流協会業務部長	オンラインにて優良農家選 定委員会を開催し、データ ベース構築のためのアンケ ート調査結果をもとに作成 されたデータから、経営規 模、栽培作物の年間収量、 認証や受賞歴などから、研 修修了生が優良農家である か否かを検討した。

③ データベース冊子配布計画

配布先	部 数
J E T R O、J I C A、関係機関	1 0 0 部

④ 事業全体報告書作成

部 数	配布計画
3 0 部	受入関係者、関係機関